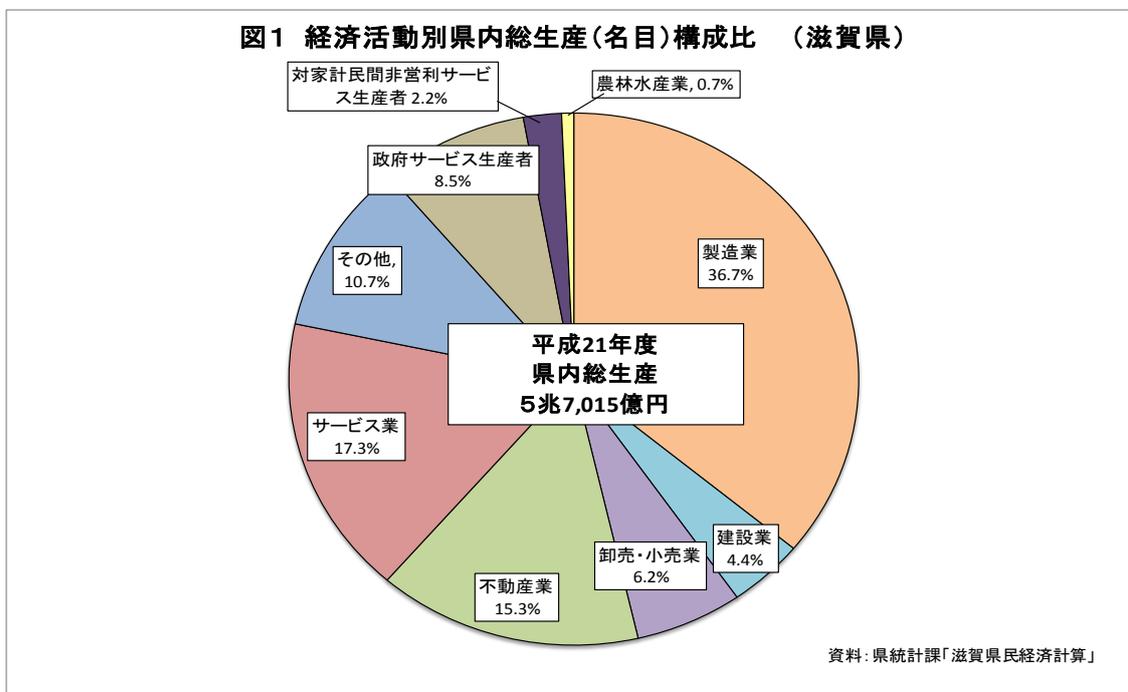


リーマン・ショック前の水準に戻る日は来るのか？

2008年9月、世界の経済活動が急落したリーマン・ショックは、海外からの需要が激減したため、輸出などの外需依存度が高い日本にも大きなダメージを与えた。そこで経済活動を表す指標である「鉱工業生産指数」でリーマン・ショック後から現在に至るまでの推移をみてみたい。

滋賀県の県内総生産は製造業が4割

滋賀県の経済活動別にみた県内総生産（名目）の構成比をみると（図1）、製造業が約4割（36.7%）で最も多く、サービス業（17.3%）、不動産業（15.3%）となっている。やはり滋賀県は製造業が多い工業県であり、県内景気をみる上でも「鉱工業生産指数」が欠かせない。



日本の経済状況を表す「鉱工業生産指数」

「鉱工業生産指数」とは鉱工業製品を生産する国内事業所における生産、出荷、在庫に関連する諸活動を体系的にとらえたものである。景気が上向くと出荷が増加し、在庫が減少するため、生産が増える。このように経済活動全体への影響が大きいことから景気をみる上では重要な指標だ。この指標を使って、リーマン・ショックの影響を受ける前（08年9月）の数値を100としてその推移をみてみたい。

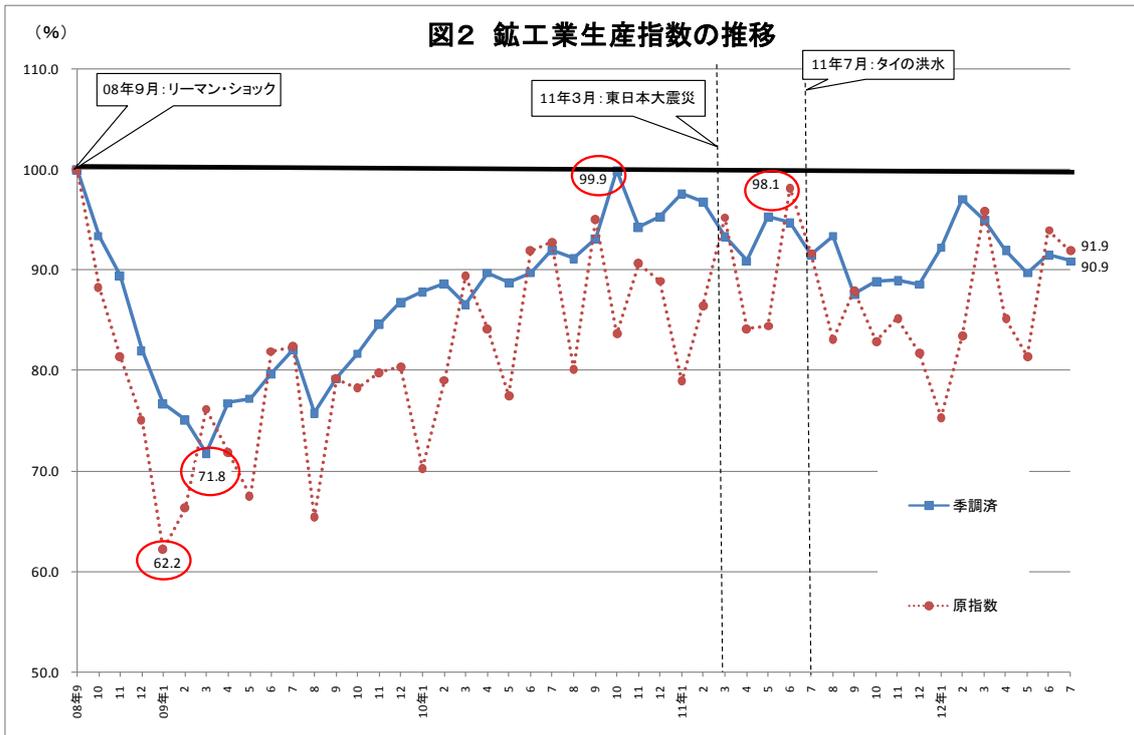
※**原指数**とは指数作成用データをそのまま指数化したもの。鉱工業指数等、経済指数には季節的な変動を含む場合が多い。

※**季節調整済指数**とは原指数に季節調整を行った指数。

季節調整済指数＝原指数÷季節指数（×曜日・祝祭日・うるう年指数）により算出

「季調済」「原指数」ともにリーマン・ショック前の水準には届かず

全体をみると（図2）、08年に9月にリーマン・ショックが発生し、「方向」を表す季節調整済指数は09年3月の71.8がボトムとなった。そこから徐々に回復傾向し、10年10月には99.9とリーマンショック前の水準までほぼ回復していたが、11年3月の東日本大震災や7月のタイの洪水、長引く欧州債務危機の影響を受け、直近の12年7月では90.9となり、依然リーマン・ショックの水準を超えていない。また、「原指数」もリーマン・ショック後は09年1月62.2がボトムとなり、11年6月には98.1まで回復したが、タイの洪水や欧州債務危機の影響もあり、直近の12年7月には91.9となった。

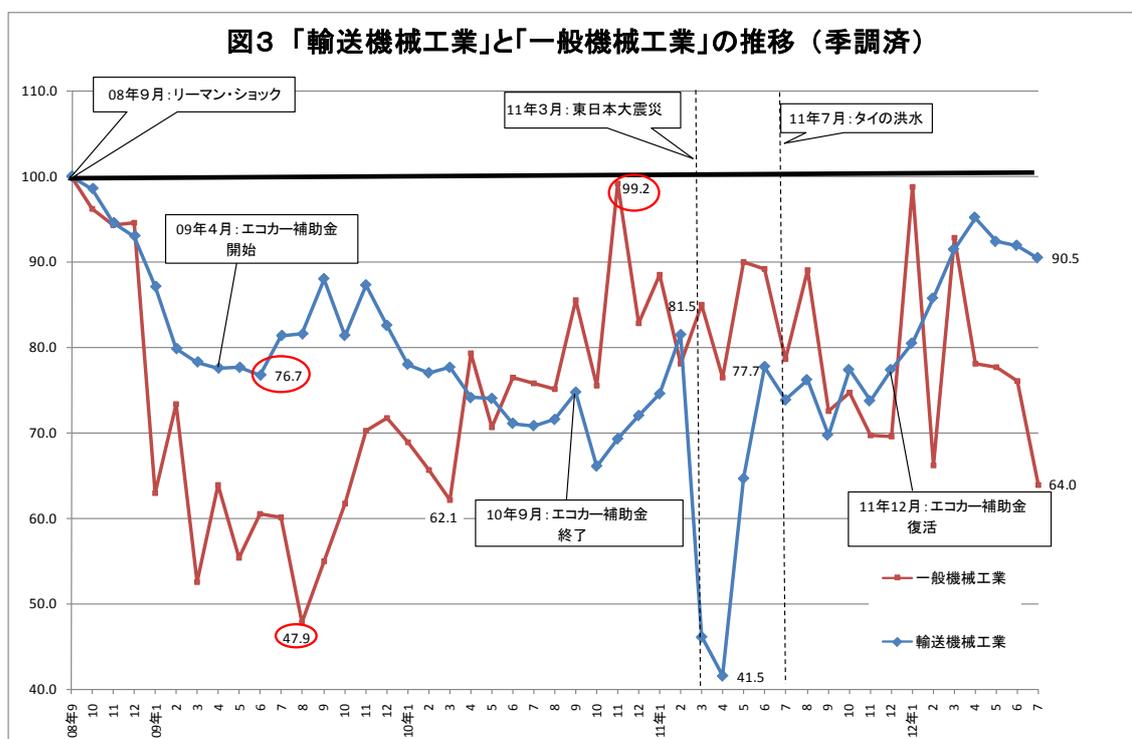


業種別の推移

1. 「輸送機械工業」と「一般機械工業」

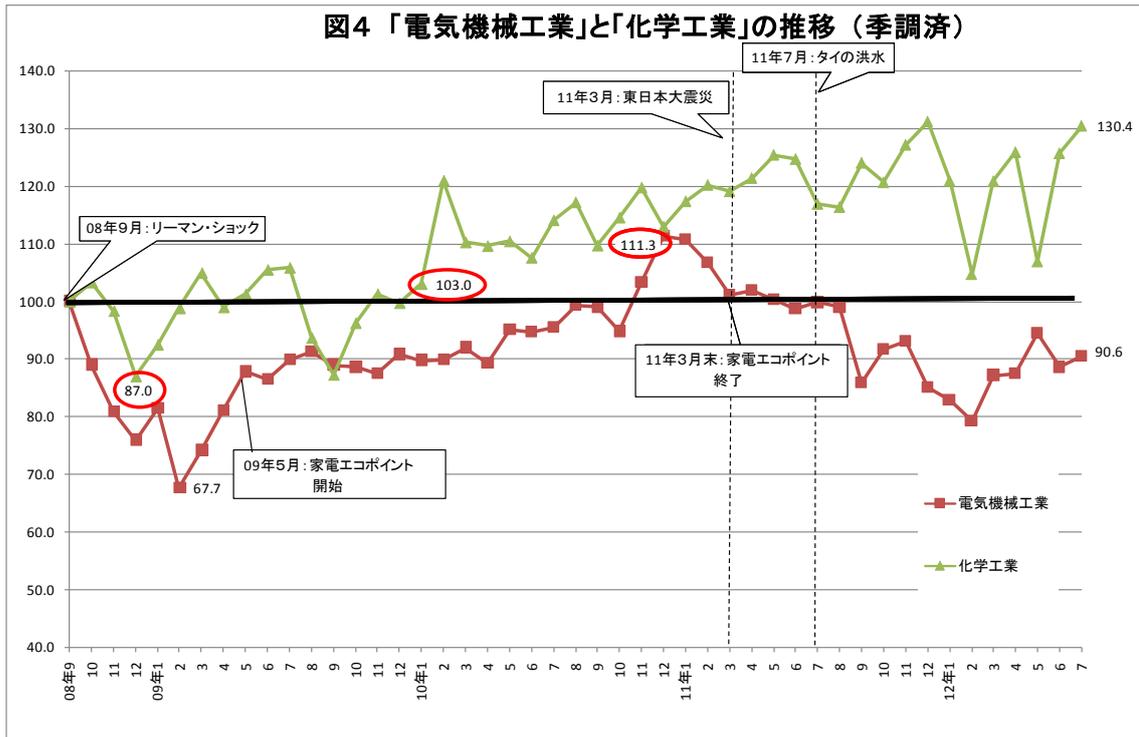
業種別にみると、(図3)、自動車、エンジンなどの「輸送機械工業」は09年4月から10年9月までエコカー補助金の施策がとられたため、09年6月の76.7を底に回復傾向をみせた。施策終了後は反動減の影響もあったが、10年10月(66.1)から11年2月(81.5)まで回復の動きをみせた。しかし翌月3月に東日本大震災が発生し、サプライチェーンが寸断され生産がストップしたため、11年4月には41.5まで落ち込んだ。その2か月後には77.7まで回復するも、翌月7月からはタイの洪水の影響を受け、再び下降した。同年12月からは再びエコカー補助金が開始され上昇するも、12年9月に終了を迎えたため、今後の反動減が懸念される。

また、半導体製造装置、一般機械器具部品などの「一般機械工業」も09年8月の47.9を底に徐々に回復し、10年11月には99.2まで回復したが、その後欧州債務危機の影響などから下落している。



2. 「電気機械工業」と「化学工業」

家電製品や蛍光灯器具などの「電気機械工業」は（図4）、09年5月から家電エコポイントの購入期間が始まり、10年11月から11年5月までリーマン・ショック前の基準を超え、購入期間終了の3か月前に生産のピークを迎えた（10年12月：111.3）。化粧品や医薬品、塗料などの「化学工業」は08年12月に87.0まで落ち込んだものの、10年1月（103.0）以降はリーマン・ショック前の水準を上回っており、12年7月では130.4となった。



鉱工業全体とウエートの高い4業種の動きをみてもリーマン・ショック前の水準は超えていない。欧州や中国などの世界経済の低迷、長引く円高の影響などから生産拠点を海外にシフトさせるなど企業の経営動向も大きく変化する今、果たして数年以内にリーマン・ショック前の水準に回復する日は来るのだろうか。

2012年11月
しがぎん経済文化センター
山西 麻美